

2-2					
主題	虐待防止・身体拘束廃止に向け自己点検シートを使用した取り組みによる職員の意識変化について				
副題	基礎的知識の全員研修実施から職員の変化について				
キーワード 1	高齢者虐待防止	キーワード 2	チェックシート	研究(実践)期間	9ヶ月

法人名・事業所名	社福)小茂根の郷 特別養護老人ホーム東京武蔵野ホーム				
発表者(職種)	飯田あき(機能訓練指導員)、森智弘(介護職員)				
共同研究(実践)者	橋本侑奈(介護職員)、田辺睦実(生活相談員)				

電話	03-3959-7423	FAX	03-3959-7438
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	板橋区に平成9年に開設しました。昨年8月に増床し、入所定員69名、短期入所9名の従来型の特養です。桜に囲まれ春には食堂から満開の桜の花見ができます。利用者とその家族の信頼に応え、個々の尊厳を重視し、その人らしい生活ができるよう、安全に安心して最後まで充実した生活が送れる居場所を提供します。				
-------	---	--	--	--	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

身体拘束廃止委員会を発足し職員の状態の把握と虐待の芽や不適切ケアを自己チェックして、高齢者虐待を防止する目的に7~8月に無記名で自己点検シートを実施した。自己点検シートは高齢者虐待の種類や通報の義務など基本的知識の項目もあるチェックシートを使用した。事務員も含めた職員49名を対象に実施した結果、基本的知識が不足している職員がいることが分かった。知識が無いために行う対応が虐待になっていることも懸念された。事業所として職員の知識習得の場を作る必要性があったため委員会として研修を実施することにした。短時間勤務の職員も全職員に実施することも課題となった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

自己点検シートの集計結果を踏まえ、それをもとに振り返りを行いながら知識の習得を目標に研修を実施した。自分が行ったシートに添って研修することで、研修を身近に感じてもらい興味を持って研修参加し知識の習得の確保を期待した。また、知識や技術、経験が未熟だと虐待につながりやすいので、それらを得る努力は個人で必要だが、虐待につながるストレスをためない為にも職員同士が話せる環境づくりは大切と伝えることで、職場環境に対しても意識してもらい働きやすい職場にしていきたいという希望もあった。知識の習得、職場環境の改善により、ケアの質の向上が図れ、それが虐待予防や身体拘束をすることのないケアにつながると期待して取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

研修の対象は全職員とした。研修の講師担当の職員は一人に設定し研修の内容や伝え方が変わらないようにした。研修の時間は15分から20分くらいの短めに設定し業務時間内に研修が行えるように所長の許可、業務中の職員同士の協力を得ながら行った。

その日の業務内容から研修実施可能な時間を検討し実施の時間を決定、まだ受けていない職員の参加を促した。研修時間をその都度、決めることで業務に支障が出ない時間をみつけられ参加へつなげることが

出来た。研修実施後は報告書を提出してもらい、職員の認識度合いや感想による意識の把握をした。

《4. 取り組みの結果》

研修報告書からの抜粋として、

・虐待は知識や技術不足、職場環境やストレスによっても生じやすくなると思うので風通しの良い環境作り、必要な研修の実施等、安心して働いていける場を作っていきたい。

・同僚や上司と話し合えないと思っている人もやはりまだ多数いるのかと残念に思います。

・拘束での考え方が間違っていたこともあり反省する。言葉一つでも考えていきたい。

・職場、職員同士とのチームプレーで虐待はなくせる。話し合える職場であれば良いと思う。

同じ自己点検シートを2019年1月から3月に職員51人全員に再度実施して変化をみた。

1回目よりも知識面や職場環境やケアに対しての意識などに改善がみられる結果がでた。

設問④虐待の通報先を知っている

1回目：はい24・いいえ24・未記入1 2回目：はい43・いいえ8・未記入0

設問⑤安全のために行う身体拘束は虐待にあたらない

1回目：はい10・いいえ38・未記入1 2回目：はい4・いいえ47・未記入0

設問⑨陰部を不必要に露出させたり、卑猥なことを言うのは性的虐待である

1回目：はい47・いいえ2・未記入0 2回目：はい51・いいえ0・未記入0

設問⑩感じた疑問を同僚や上司と話し合える状況である

1回目：はい31・いいえ14・未記入4 2回目：はい45・いいえ5・未記入1

2回目の自己点検シートを実施して報告書からの抜粋

・今まで同僚や上司に遠慮があり思った事、疑問などぶつけられなかったが今では気軽に話し合える状況となり仕事がしやすくなった。

・虐待に対し理解を高めることで、常日頃の利用者への接し方が向上すると思う。虐待そのものではなくとも、サービスとしてのお客様に対する質の向上を一人ひとり努力することで施設全体のレベルが上がると感じています。

以上のように、職員の意識の向上が見られた。

《5. 考察、まとめ》

今回、自己点検シートを実施したことで職員の身体拘束や高齢者虐待についての知識が向上し、意識を持って日々のケアにあたり、利用者に対する不適切ケアについても考えて実施するようになったことがうかがえた。また職場の環境も大切と考え利用者に対応するだけでなく、職員同士の働きかけがあり、つながりや信頼なども以前に比べ良くなったと感じる職員が増えた。

風通しのよい職場環境は、働く職員がやりがいを感じ、よりよいケアに結びつくと考えられる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、施設職員に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

神奈川県ホームページ 施設職員の為の手引き

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/u6s/cnt/f3673/p1082156.html> (2019年7月1日)

平成30年度東京都高齢者権利擁護推進事業「高齢者虐待防止研修」資料 東京都福祉保健財団

《8. 提案と発信》

高齢者虐待防止・身体拘束廃止に対し職員個人の不適切ケアという問題だけで自己点検シートのチェックシートを実施するだけではなく、職員教育といった組織の取り組みの必要性がある。